

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都市右京区太秦上刑部町10番地								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	株式会社DNPテクノパック関西 取締役 三好 誠治								
事業者の主たる業種	印刷業								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上／タクシー150台以上／鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	平成20年4月～平成23年3月								
基本方針	DNPグループは、限られた地球環境のなかで持続的に経済社会を発展させ、循環型社会を形成していくために、環境法規の遵守はもとより、あらゆる事業活動において環境との関わりを認識し、環境への負荷を低減する。								
推進体制	全社組織：大日本印刷グループ環境委員会 事業部組織：包装事業部グループ環境委員会 環境マネジメントシステム名称 適用範囲 取得年月日								
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	平成20～22	全体	エネルギー使用量原単位（エネルギー使用量／生産金額）を年2%改善し、22年度まで19年度比6%削減する。（(21)7.5%達成）						
	平成20～22	製造部門	槽内蒸気トラップ診断の実施及び不具合の整備により蒸気ロスを削減（毎年実施）						
	平成20～22	製造部門	生産工程のエアーを本機連動化（機械停止時に完全にエアーを止める）						
	平成20～22	製造部門	モーター・ファン類のインバータ化						
	平成20～22	全体	遮熱フィルム・遮熱塗装による冷房負荷軽減						
	平成20～22	全体	照明の省エネ（間引き、人感センサー設置、LED照明への取替）						
	平成21年度	製造部門	焼却廃熱蒸気量アップによるガス焚ボイラの運転抑制						
	平成21年度	製造部門	吸収式冷凍機冷却水配管内洗浄による熱交換能力復元						
	平成21年度	製造部門	空調除湿制御の見直しによる冷房負荷を低減						
	平成21年度	製造部門	老朽化冷凍機（BCR・LM機械冷水製造）の更新						
	平成21年度	製造部門	工場エアーの最適化による省エネ（エアー配管のループ化、高効率コップレッサ・台数制御盤へ更新、インバータコンプレッサの設置、エアー圧力の低圧化）						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （21）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）			
	A 事業所等排出区分	37,848 t	36,713 t	-3.0 %	36,708.5 t	-3.0 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	14,574 t	14,574 t	0.0 %	16,024.8 t	10.0 %			
	排出合計	*1 52,422.0 t	*2 51,286.6 t	-2.2 %	*4 52,733.3 t	0.6 %			
	実績に対する自己評価	①印刷機・ラミネート機の排気ガスを脱臭装置で処理する為のエネルギー量が増加。（装置を増設し法改正前から運用開始） ②廃熱ボイラ付焼却炉で廃棄物の処理を促進し蒸気回収を図った（ガス焚ボイラのガス使用量削減）一方で、その他排出区分の排出量が増加した。							
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
	京都工場	二酸化炭素換算 （生産数量）	12.5 t-CO ₂ /百万m	12.1 t-CO ₂ /百万m	-3.0 %	13.6 t-CO ₂ /百万m	8.8 %		
	田辺工場	二酸化炭素換算 （生産数量）	22.0 t-CO ₂ /百万枚	21.7 t-CO ₂ /百万枚	-1.4 %	22.1 t-CO ₂ /百万枚	0.6 %		
					%		%		
	実績に対する自己評価	京都工場の悪化理由として生産数減は、印刷m数を指標にしているが、21年度は、印刷後の工程で機械の増設と脱臭装置の増設によりエネルギー使用量が増加。							
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）			報告年度（実績）				
		取組量等	（二酸化炭素換算）		取組量等	（二酸化炭素換算）			
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t
	府内産の木材の利用	（利用量）	m ³	（削減量）	t	（利用量）	m ³	（削減量）	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kwh	（削減量）	t	（発電量）	kwh	（削減量）	t
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	（購入量）	t	（削減量）	t	（購入量）	t	（削減量）	t
	削減量等合計			*3	t	*5			t
差引排出量 （排出合計－削減等合計）		基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）			
		1 52,422.0 t	()2-(*)3 51,286.6 t	-2.2 %	(*)4-(*)5 52,733.3 t	0.6 %			
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市が呼び掛けるライトダウンキャンペーンに参加する。 ・嵐山的美観保護のためのクリーンキャンペーンを実施する。 								
特記事項	【DNPグループ目標】 1. 温室効果ガス排出量を2020年度までに2005年度比10%削減する。 2. 原材料購入額に占める当社グリーン購入基準該当品比率を2010年度までに40%までアップする。 3. 事務用品・備品等購入総額に占めるエコマーク等環境ラベル認定品の購入比率を2010年度までに50%までアップする。								

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。